

# 主 論 文 要 旨

報告番号	① 乙 第	号	氏 名	今関 一飛
主 論 文 題 名 :				
欲求連鎖分析の定量化に基づくビジネスモデルの有効性評価手法				
(内容の要旨)				
<p>近年、複雑化した社会問題に対応する為、ソーシャルビジネスが注目されている。また、一般のビジネスにおいても、顧客の欲求の複雑化や、顧客だけでなく様々なステークホルダを考慮する必要性が生じている。これらの複雑化したビジネスにおいては、①様々なステークホルダが存在する、②各ステークホルダの要求があいまいで複雑である、③各ステークホルダの利害関係が複雑である、という特徴が存在する。このようなビジネスにおいては、すべてのステークホルダの要求を満たすことは容易ではなく、ビジネスモデルの発想・設計・有効性評価は非常に困難となる。</p> <p>本論文では、以上のような複雑なビジネス環境に対応すべく、欲求連鎖分析を用いたビジネスモデルの発想・設計法および、欲求連鎖分析の定量化に基づくビジネスモデルの有効性評価手法を提案した。本論文の実施内容を以下に示す。</p> <p>まず、欲求に着目して、成功するビジネスモデルの類型化を行った。また、その結果から、欲求連鎖分析を用いたビジネスモデルの発想・設計法を提案した。これにより、現状の分析法であった欲求連鎖分析を、発想・設計法として拡張した。</p> <p>次に、取り扱う欲求の範囲の拡張を行った。拡張のために、人間の判断について、人間のプリミティブな判断である運動制御の知見を用いて、構造化を行った。さらに、運動制御と判断構造、欲求のアナロジーを用いて、行動の基となる欲求を考える際には、促進される欲求と抑制される欲求の両者を考慮する必要があることを導いた。さらに、促進される欲求と抑制される欲求を表現するため、否定形欲求の概念の導入と構造化を行った。構造化により、否定形欲求を欲求連鎖分析で用いることを可能とした。以上の手順により取り扱う欲求の範囲が拡張され、従来の欲求連鎖分析で考慮していた行動の基となる欲求だけでなく、行動を制限する欲求が考慮可能となった。</p> <p>次に、拡張した欲求同士のトレードオフが考慮可能なように欲求連鎖分析を拡張した。具体的には、通常欲求と否定形欲求を両方考慮し、両者について一対比較法を用いて評価する手法を提案した。これにより、行動の基となる欲求が大きい場合には行動を実施し、行動の妨げになる欲求が大きい場合には行動を実施しない、というステークホル</p>				

ダの意思決定が分析可能となった。本内容について、実事例を用いて評価を行い、通常の欲求だけでなく、否定形欲求を分析でき、欲求のトレードオフが考慮可能になっていることを確認した。

さらに、拡張した欲求連鎖分析を発展させ、欲求連鎖分析の定量化法の提案を行った。定量化のため、従来の欲求に関する知見と、高度な意思決定であるヒトの運動制御法の知見を分析し、欲求を階層的に構造化することの有効性を見出した。この知見より、欲求を階層構造として捉えることで、欲求の構造化を行った。構造化の結果、欲求が、総合的な欲求満足度、各欲求の充足度、各行動の3階層に分類され、階層間は重みをもって結合されるというように構造化された。構造化された欲求と、前述した欲求のトレードオフの分析法を用いて、欲求連鎖分析の定量化法を提案した。実際のビジネスモデルの例を用いて、各ステークホルダの欲求が実際に定量化可能であることを確認した。

最後に、定量化された欲求連鎖分析を用いて、ビジネスモデルが有効であるかを判断できる評価手法を提案した。提案する評価手法は、対象とするビジネスモデル（To Be モデル）と現在のビジネスモデル（As Is モデル）について、定量化した欲求連鎖分析により各ステークホルダの欲求を定量化し、その差分をとることで、To Be モデルが As Is モデルよりも有効であるかを判断するものである。本手法について実際のビジネスモデルの例を用いて評価を行った。また、実施者が変わった場合の実施結果がどのようになるかについて分析を行った。さらに、競合ビジネスモデルがある場合に、どちらが有効なビジネスモデルであるかを判断できるかについても分析を行った。以上より、提案手法によりビジネスモデルが有効か否かについて、妥当な判断が可能であることを示した。

本論文の成果を以下に示す。

- ・ 欲求に着目して、ビジネスモデルを類型化し、欲求連鎖分析を用いたビジネスモデルの発想・設計法を提案した。
- ・ 欲求の概念を、否定型欲求を導入することで拡張し、行動の基となる欲求だけでなく、行動を制限する欲求についても考慮可能とした。
- ・ 欲求のトレードオフの分析法を導入し、行動の基となる欲求と行動を制限する欲求のトレードオフを分析可能とした。
- ・ 欲求を構造化し、ステークホルダの欲求を、総合的な欲求満足度という値で定量化可能とした。これにより欲求連鎖分析の定量化を行った。
- ・ 定量化した欲求連鎖分析を用いたビジネスモデルの評価法を提案した。これにより複雑なビジネスモデルの開発時に、ビジネスモデルが有効か否かを判断することが可能となった。

別表5  
(3)